

所属・氏名（薬学部薬学科 氏名：世良行寛）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Knockdown of the Shwachman-Diamond syndrome gene, SBDS, induces galectin-1 expression and impairs cell growth	共著	2024年4月	Int J Hematol.	シュバツハマン・ダイヤモンド症候群の原因遺伝子である SBDS のノックダウンによりガレクチン1の発現が誘導され、細胞の増殖を阻害しアポトーシスを誘導することを示した。 (総ページ数:9頁) (Masafumi Yamaguchi, <u>Yukihiro Sera</u> , Hanae Toga-Yamaguchi, Hirokazu Kanegane, Yusuke Iguchi, Kingo Fujimura) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2 (学術論文) M phase-specific interaction between SBDS and RNF2 at the mitotic spindles regulates mitotic progression 《筆頭論文》	共著	2023年10月	Biochem. Biophys. Res. Commun.	SBDS と RNF2 が紡錘糸上で相互作用し、SBDS のユビキチン化と分解を介して分裂期の進行を制御していることを明らかにした。 (総ページ数:6頁) (<u>世良 行寛</u> 、今中 常雄、山口 雅史) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3 (報告・発表) M phase-specific interaction between SBDS and RNF2 on mitotic spindles regulates the mitosis.	共著	2023年10月	85th Congress of the Japanese Society of Hematology	SBDS と RNF2 の紡錘糸上での相互作用が分裂期の制御に関与することを見出し、SBDS の欠損により生じるシュバツハマン・ダイヤモンド症候群の病態モデル細胞を用い SBDS が紡錘体チェックポイントに関与する可能性を示した。 (<u>世良 行寛</u> 、山口 雅史)
4 (学術論文) チーム基盤型学習(TBL)を用いた自律的な学修力、教育力、コミュニケーション力の可視化	共著	2022年3月	広島国際大学基盤教育センター紀要	生物学演習を TBL にて実施し、成績の各項目、ならびにアンケートを解析したところ、TBL による学修は、学力のみならずコンピテンシーの醸成、ならびに評価が可能なが示された。(総ページ数:10頁) (山口 雅史、井口 裕介、宇根 瑞穂、大西 勇氣、神垣 真由美、清家 総史、 <u>世良 行寛</u> 、瀧野 純一、平尾 雅代、山下 ユキコ) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
5 (学術論文) SBDS interacts with RNF2 and is degraded through RNF2-dependent ubiquitination 《筆頭論文》	共著	2022年2月	Biochem. Biophys. Res. Commun.	RNF2 が SBDS をユビキチン化しプロテアソームを介した分解制御を促進することを明らかにした。(総ページ数:5頁) (<u>世良 行寛</u> 、佐戸谷 実希、一瀬 貴史、松谷 真次、今中 常雄、山口 雅史) 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
6 (報告・発表) Increased ROS production due to SBDS gene mutation leads mitochondria dysfunction and DNA damages	共著	2021年9月	第83回日本血液学会学術集会	シュバツハマン・ダイヤモンド症候群(SDS)の病態モデル細胞を解析し、ゲノムDNA 傷害やミトコンドリアダメージの蓄積によるROS 産生亢進がオートファジーを誘導している可能性を示した。 (山口 雅史、山本 桜子、武藤 朱音、古場 脩太、中村 啓太、馬原 涼雅、 <u>世良 行寛</u>)

令和6年4月17日 現在